



南極観測隊経験者に インタビュー



11・17・26 次越冬、22 次夏

ふくにし ひろし
福西 浩さん

公益財団法人日本極地研究振興会理事

(2016年7月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

ロケットによるオーロラ観測の仕事を主に担当しました。オーロラは地上 100km 以上の超高層大気が宇宙空間から磁力線に沿って入射する高エネルギー電子によって発光する現象です。そこでオーロラを、その発光高度で観測するためにはロケットが必要になります。昭和基地でのロケット観測は 1970-1973 年、1976-1978 年、1984-1985 年と 3 期にわたって行われ、合計 46 機のロケットが発射されました。南極でオーロラのロケット観測を成功させたのは日本だけです。17 次隊ではロケット実験主任を、26 次隊では越冬隊長を務めました。



昭和基地の南 20km にあるラングホフテ地域で



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

最初に南極に行ったのは大学院博士課程の学生の時で、オーロラの研究のために第 11 次隊に参加しました。南極に行ってオーロラの研究をすることは中学生時代からの夢だったので、昭和基地に降り立った時の感動は今でも鮮明に思い出します。南極の自然から受ける一番の感動は、原生的自然がそのままの形で残されていることです。露岩地域の迷子石を見ると、人間の手が全く入らない自然とはどういうものかを語ってくれます。



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

南極の楽しさは、人間によって汚されていない美しい自然を見ることができることです。星雲まではっきり見える夜空、華麗なオーロラ、ペンギンやアザラシ、氷河や氷山、・・・本当の自然とは何かを教えてください。また、南極観測隊は少人数ですので、自分たちの目標を達成するために、厳しい自然の中で互いに助け合い、チームとして行動します。調理担当隊員が心を込めて作ってくれる夕食は素晴らしく、その日の出来事を互いに語り合う楽しい場です。1 年を南極で過ごす、南極観測隊の仲間は一生涯の友だちになります。